

〈 連載(312) 〉

## オーストラリア発着のクルーズが急成長



大阪府立大学21世紀科学研究センター  
特認教授 池田 良穂

世界的にブームになって、年間2500万人がクルーズを楽しみ、14兆円産業にまで達したクルーズ産業だが、最も成長著しいのがオーストラリア・ニュージーランドであることをご存じだろうか。クルーズ人口を、その国の人口で割った数をクルーズの浸透率と呼んでいるが、オーストラリアの浸透率が、図1に示すように、アメリカの3.5%を抜いて4%となり、世界一となった。

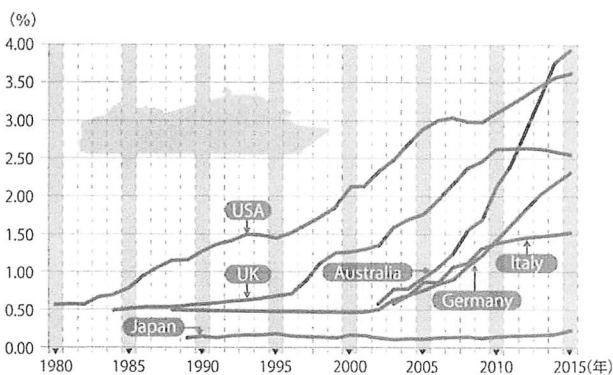


図1 アメリカ、欧州、日本のクルーズ人口の推移 (クルーズ人口/人口)

オーストラリアは、イギリスからの移民を中心とする国で、イギリスとの間には大型客船がたくさん就航して人々を運んだ。戦後も、イギリスの老舗海運会社P&Oは、

「キャンベラ」や「オリアナ」などの大型客船を投入していたし、系列会社が日本との間に定期客船航路を運航していたことは、私の記憶にもよく残っている。このように海を渡ってきた人々が、船旅に憧れと夢をもって、クルーズ客船にも乗船するという心情はよく理解ができる。

長距離の定期客船が姿を消した1970年代以降、オーストラリア発着のクルーズはP&O社等によって堅調に維持された。筆者が若いころに、客船についていろいろ教えていただいた名古屋在住の小島公平氏は、日本で乗船できるクルーズがきわめて限られていたことから、オーストラリアに半年にわたって居を移してオーストラリア発着のクルーズ客船に乗りまくったという話を聞いて、羨ましいのと、なぜオーストラリアではクルーズがしっかりと定着したのかを知りたいと思っていた。

オーストラリアのクルーズ浸透率が4%となったという情報を得て、ぜひともオーストラリアに出かけて、クルーズにも実際に乗ってみたいと思っていた。この夢を、

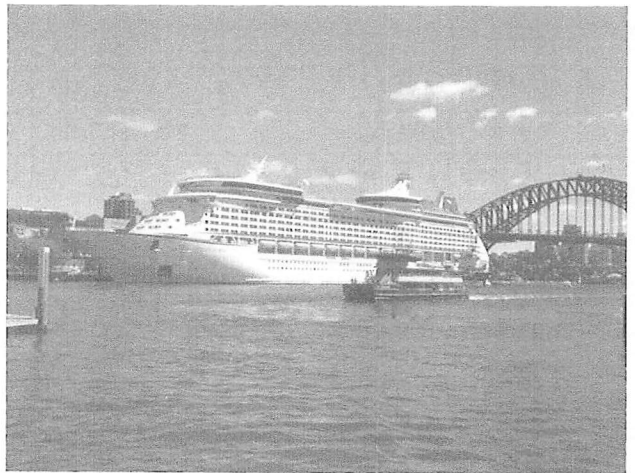
ようやく、この3月に叶えることができた。

シドニー発着の10泊11日のニュージーランドクルーズが、きわめてリーズナブルな価格でRCI(ロイヤル・カリビアン・インターナショナル)から売り出されていた。船は17万総トンの新鋭船「オベーション・オブ・ザ・シーズ」。クァンタム級の最新鋭船で、夏場は中国発着クルーズに投入されて、日本にも時々やってきている船だ。

このクルーズへの乗船を決めてから、シドニーのガイドブック「地球の歩き方」を購入して、まず驚いた。なんと、カラーで6ページにわたって、シドニー発着のクルーズが紹介されているのである。日本人向けのガイドブックでさえ、シドニー発着の「クルーズ」に注目しているということだ。日本人向けの東京や神戸の観光ガイドブックには、遊覧船は紹介されていても、本格的クルーズの紹介がされることはほとんどないと思う。シドニー在住の記者や情報提供者からの情報をベースにしてクルーズの紹介ページとなったものと思われるが、いかに一般生活にクルーズが浸透しているかの証ともとれる。

さて、3月中旬にシドニーに向った。8時間余りの飛行で到着し、シドニーの客船ターミナルを正面にみるホテルの部屋をとった。乗船前に2泊して、久しぶりにシドニー港のフェリー群をみることにしていた。まず到着した当日には、14万総トンの「ヴォイジャー・オブ・ザ・シーズ」が、2日目には同じく14万総トンの「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」が、そして3日目には、筆者が乗船する「オベーション・オブ・

ザ・シーズ」が入港した。このように連日のようにクルーズ客船が入港している。



シドニー港に停泊する「ヴォイジャー・オブ・ザ・シーズ」



2日目に入港した「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」

「オベーション・オブ・ザ・シーズ」に乗船して、船長からの乗客構成の話にまた驚かされた。シドニー発着のこのニュージーランドクルーズの乗客の半分近くが、フライ&クルーズで海外からシドニーにやってきた人であることがわかった。結構遠いアメリカとイギリスが多く、欧州各国や中国人乗客の数も増えているという。残念ながら、日本からの乗客については言及がなかったが、クルーズ中にも船内で日本人には出会わなかった。4500人を乗せる巨大客

船なので意図せず出会う確率は低いのであろうが。ただ、船長に紹介されて並んだ士官の中に、日本人女性がいたことはとても嬉しかった。

同様の傾向が日本発着の外国籍クルーズ客船にもみられることも指摘されており、世界的な規模でのフライ&クルーズ需要が

急増していることは確かなようだ。フライ&クルーズは、当初は、マイアミ発着のカリブ海クルーズで取り入れられたシステムだが、今では、世界的な規模での広がりを見せていると言えるのかもしれない。これには格安航空機(LCC)が長距離路線にも展開されている影響もあるであろう。



3日目に入港した「オベーション・オブ・ザ・シーズ」。前をシドニーのフェリーがたくさん行き交う。



